



円卓を設置した会食室(左上)とキッチン付きの遺族控室(右上)、そしてベッドルーム(右下)

■仙台七北田斎場 清月記の概要

[所在地] 仙台市泉区名坂字新道4-15  
 [開業] 2013年10月  
 [敷地面積] 1,566㎡  
 [延床面積] 541.52㎡  
 [建物構造] 鉄骨造平屋建て  
 [施設概要] 式場(200席)、会食室(70席)、遺族控室(82㎡・和室、ベッドルーム、リビングルーム)、導師控室兼応接室、パントリー、事務室、駐車場50台収容可能



態であったことが容易に想像できた。  
 こうしたことから賃借物件ではあるものの、清月記が費用負担してリノベーションを施すことになった。そこで菅原社長と担当者が館内をくまなく見て回ると、式場の椅子は乱れ、焼香台の位置もずれており、そして抹香が置かれたままで、葬儀が終わったばかりのような状態で放置されていたという。控室も乱雑になっており、さらには倉庫も整理整頓がなされていないばかりか、備品が必要以上にストックされているなどのざさんさが葬儀件数が伸びない最大の要因であったようだ。

リノベーションについては、諸室の基本的な配置は変えなかったものの、防音設備やクロス、カーペットの張替え、椅子の交換、そして大きく変えたのは遺族控室。和室12畳、6畳の続き間で、当時(2013年)からみてもふた昔前のスタイルであった。続き間であった控室を一体化させ、ベッドルーム、和室、リビングダイニングルーム、そしてキッチンを備えた82㎡の遺族控室に変更。外観についても、薄汚さを感じるほどだったため、純白に塗装をやり直し、新たに車寄せを設置した。

こうして2か月弱の工事期間で、泉区内本社3か所目の葬祭会館「仙台七北田斎場 清月記」として生まれ変わった。

泉区では、同社第1号会館の仙台泉斎場 清

月記と仙台東斎場 清月記、そしてこの七北田斎場 清月記の3館体制による相乗効果もあり、前事業者時代には年間20件そこそこの施行だったが、現在では年間70件を施行するまでになっている。

エレベータ新設工事が伴ったものの戦略拠点としての魅力を優先

七北田斎場オープン翌年にも他社会館をリノベーションして清月記にしたケースがある。太白区に2014年に開設した「仙台中田斎場 清月記」だ。

同社の太白区内の葬祭会館はそれまで「仙台太白斎場 清月記」(01年)、「ファミリーたいはく」(06年)、「ファミリーながまち」(07年)、「仙台八木山斎場 清月記」(13年)の4会館を展開していた。中田斎場はJR東北本線南仙台駅から徒歩10分弱の国道4号沿いの立地である。1km南下すれば名取市という中田地区は、同社にとって戦略上拠点を設けたい地であった。名取市からも吸引できることから、商圏の拡大に寄与することが見込まれていたからだ。今年3月開業の「みおくり邸宅 名取」(2021年8月号参照)は、同社において名取市初進出となったが、この中田斎場によって名取市が開拓できたことで、相乗効果が図られたといえる。

銀行跡地を買って建てたという会館は、鉄骨

●仙台中田斎場 清月記

Before



2階

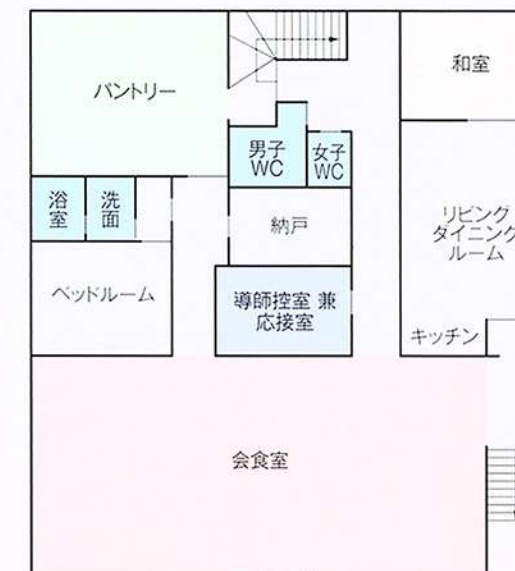


1階

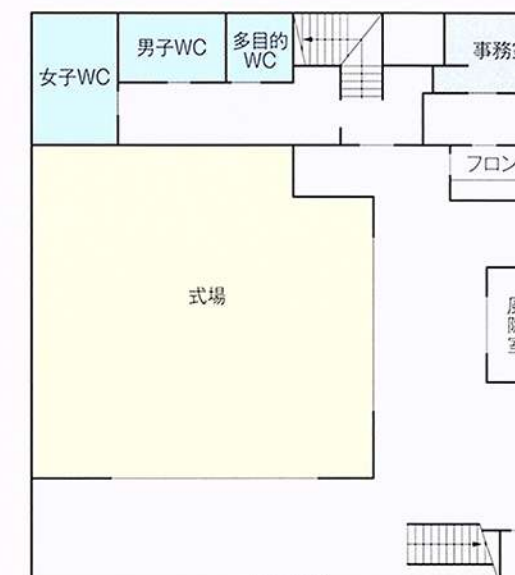
■仙台中田斎場 清月記の概要

[所在地] 仙台市太白区中田5-13-21  
 [オープン] 2014年6月  
 [敷地面積] 1,207㎡  
 [延床面積] 634㎡  
 [建物構造] 鉄骨造地上2階建て  
 [施設概要] 1階:式場(150席)  
 2階:遺族控室(和室6畳、洋室8畳、ベッドルーム6畳)、会食室(80席)、導師控室兼応接室(6畳)、駐車台数30台収容可能

After



2階



1階

